

製品名: ウロコルチンウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab19648**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	UCN
別名	UCN; Urocortin
遺伝子 ID	7349.0
SwissProt ID	P55089
免疫原	抗血清はヒトウロコルチン由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 71-120

背景

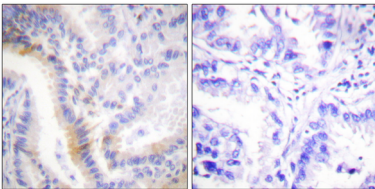
この遺伝子は、ソーバジン / 副腎皮質刺激ホルモン放出因子 / ウロテンシン Iファミリーのメンバーをコードしています。コードされているプレプロタンパク質はタンパク質分解によって成熟ペプチドを生成します。このペプチドは、副腎皮質刺激ホルモン放出因子

受容体 1 と副腎皮質刺激ホルモン放出因子受容体 2 の両方に対する内因性リガンドです。脳内では、このペプチドがストレスによる食欲への影響に関与している可能性があります。また、このペプチドは気分障害、神経変性、骨格系疾患にも関与している可能性があります。遺伝子ファミリー名は類似していますが、この遺伝子産物はウロテンシン 2 と配列相同性がありません。[RefSeq 提供、2016 年 2 月]、機能: in vitro で副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) の分泌を刺激します。CRF 受容体 1 型、2- α 型、2- β 型に高い親和性で結合します。類似性: サウバジン/副腎皮質刺激ホルモン放出因子/ウロテンシン I ファミリーに属します。、

研究分野

心臓血管、血液、神経科学、内分泌系、視床下部・下垂体・副腎系、動脈硬化、虚血・再灌流

画像データ



ウロコルチン抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。